

論文

# 盆踊りの所作

Hand Gestures and Steps of the *Bon*-Dance

山田 敦子 ( 高知大学教育学部 )

Atsuko Yamada

*Faculty of Education, Kochi University, Kochi, Japan*

## ABSTRACT

The purpose of this study is to discover the characteristics of hand gestures and step patterns common to the 124 *Bon*-Dances, in relation to the *Nembutsu-Dance*.

The results are as follows:

1) The greatest number of features to be found has been six actions executed in each musical phrase (36 out of the 124 dances).

The 34.7 % of the dances consist of two to six actions in each musical phrases.

2) The formation of the 118 *Bon*-Dances is a circle.

3) Step patterns are common to those of the *Nembutsu-Furyu* folkloric performing arts which were found in previous studies.

4) The typical hand gestures are “ joining hands or clapping ” and “ *Kazasu* ” (holding up a hand in front of ones forehead).

## 研究目的

「盆に招かれてくる死者の霊を慰め、また送る踊」<sup>1)</sup>である盆踊りは、「平安時代に空也上人によって始められ、鎌倉時代に、一遍上人に受け継がれた踊躍念仏が、時宗とともに、民間に広まり、室町時代に盆踊りに展開したものとされる。」<sup>2)</sup>

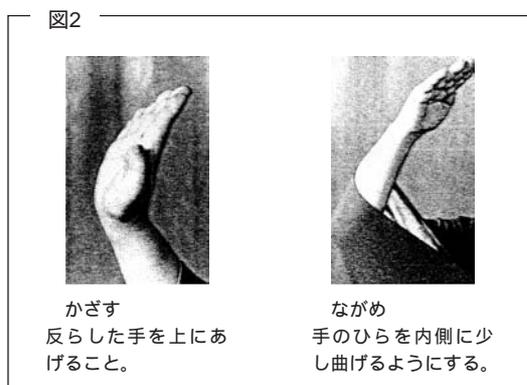
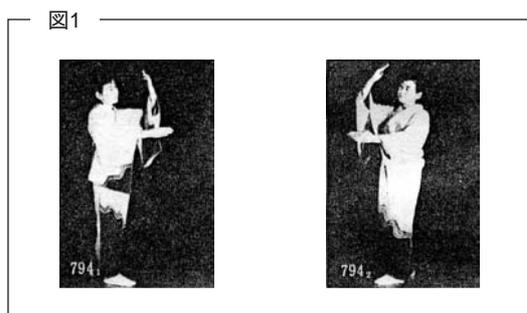
念仏踊りの動きの特徴について、三隅<sup>3)</sup>は次のように述べている。

念仏踊りはとんだり跳ねたりで、足を上げ、そして合掌する。手を合わせたものからその手をすり上げたり、下へおろす。そして前へ進むときにはものをつかむようにこぶしを握り、ついでそのこぶしを開いて、ものを払うような、投げるようなかたちをする。そのときは、うしろへ半歩退くような動きをし、それからまた前へ向いて、また合

掌したり、手を前に振り込んだりする。そしてまた集団で踊りますから、どこかでけじめをつけないとみんながそろいません。ですから、動作が一巡したところでチョヨンガチョンというふうな手拍子を打ったりします。大体ワンフレーズが六つくらいの動作です。

また標準日本舞踊譜<sup>4)</sup>では、日本舞踊<sup>5)</sup>の所作を、A:基本ノ姿勢ト動作、B:本来意味ヲ持タナイ姿勢ト動作、C:主トシテ意味ヲ伴ッテイル姿勢ト動作、に分類している。盆踊りは、Cのなかの、C 3:人間ノ姿勢ト動作ヲモトニシタモノ、さらにその中の、C 3:信仰・芸能・遊戯ナドに分類され、動作番号「794」として示されている。(図 6)<sup>6)</sup>その所作は片手を顔の横斜め上に伏せかざし(ながめ)(図 7)<sup>7)</sup>参照)片手はかざした手の袖

口に添えた動きである。盆踊りという意味を示す所作



がなぜこのような動きなのであるか？

筆者は今までに、土佐を起点として、四国、近畿地方における盆踊り以外の念仏・風流系芸能を対象に、「祈る」という表現がどのような足の所作によって行われているのかを明らかにしてきた。<sup>8)</sup>それは、A：三歩歩く、B：両足を揃えて膝を屈伸する、C：片足を軸足の前で交差させる（× 綾をつくる）を基本的な足の所作とするものであった。

念仏・風流系芸能である盆踊りの中で、「祈る」という心象はどのような所作によって表現されているのだろうか？ これまでに明らかにされてきた念仏・風流系芸能にみられる足の所作とどのようななかかわりを持っているのだろうか？

また、盆踊りは、団扇、扇子、あるいは手ぬぐいを持って踊ることもあるが、ほとんどは、手に何も持たずに踊る〈手踊り〉である。歌舞伎踊りのなかの〈手踊り〉について、郡司<sup>9)</sup>は次のように述べている。

物真似の振りに対して、解釈すべき意味をもたない体操的な踊りで、しかも扇や手拭などの持物も使わない踊りに〈手踊〉がある。これはかぶき踊りが民俗舞踊から採り入れたもので、能にはない躍動美をもち、一人でおどっても、大勢のなかの一人という意味をもっており、解放感をともなった、ひなびた美しさをもつものである。

郡司の言う民俗舞踊とは盆踊りのことであろう。歌舞伎舞踊に採り入れられたとされる盆踊りの手の所作には、どのようなものがみられるのであろうか？

本論は、盆踊りの中に見られる手・足の所作を分析し、三隅の指摘しているような念仏踊りの所作がどのような形で传承されているのかを明らかにし、それらの特徴を見出そうとするものである。

## 研究方法

盆踊りの所作の共通性を見出す為には、できるだけ多くの地域、種類の盆踊りを対象にしなければならないが、盆踊りは、各地域で旧・新暦の盂蘭盆会を中心として、1年に1回だけ、踊られるものであり、数多くの盆踊りを個人が直接収集することは難しい。そのために、本論では、社団法人日本フォークダンス連盟が全国の民踊を対象として収録、分類し、踊り方・歌詞・楽譜を示した「ふるりの民踊 ～」<sup>10)</sup>のなかの盆踊りにみられる共通な手・足の所作を分析、整理し、盆踊りに共通な「祈る」身体表現を明らかにしようとするものである。

踊りは、具体的な動き、リズム、歌詞、装束の総合的な表現であるので、それらを総合して分析する必要があるが、これらの考慮しなければならない条件は当然のこととして認識した上で、今回は、手・足の所作に関する記述のみを対象として、上半身の動き・下半身の動きと別々に分析することとした。<sup>11)</sup>

民踊とは民謡舞踊のことであり、昭和23年から用いられるようになった用語である。もともと振のない民謡「ソーラン節」、「炭坑節」などに振をつけたものや、レコード会社によって発表された新民謡に振付けたもの等があり、擬似民俗舞踊として踊られているとも言われている。<sup>12)</sup>今回対象とした文献・に掲載されている高知県の民踊8種類をみみると、古来から传承されてきている盆踊りが6種類掲載されていた。このことをふまえて、対象文献・に掲載されている334種類の民踊を以下の基準で分類し、本論で分析対象とする盆踊りとして124種類を抽出した。

### 分類基準

- 1、明治以降に振付けられたことが明記されているものは省く
- 2、現在、盆に踊られているものである
- 3、手踊りである

抽出された盆踊りは資料1に示すとおりである。資料1は、各々の盆踊りの解説書に記述されている内容から読

資料1：踊りの手の数・隊形・はじめ方

No.	県名	踊りの名称	ア、 手数	イ、隊形					ウ、はじめ方		
				輪			列	輪・列	進行	円心	逆進行
				時計	反時計	その場					
1	青森	津軽盆歌	6								
2		南部盆踊り	10								
3		十三の砂山	6								
4		鯨ヶ沢甚句	4								
5		黒石じょんがら節	6								
6		津軽甚句	7								
7		御慶山踊り	11								
8		とらじよさま	7								
9		嘉瀬の双踊り	21								
10		黒石甚句	7								
11	岩手	江刺甚句	14	二重円							
12		盛岡さんさ踊り	11								
13		南部よしゃれ	13								
14		沢内甚句	40								
15	秋田	西馬音内盆踊り	12								
16		ドンバン節	16								
17		秋田盆歌	6			円外					
18		毛馬内盆踊り	6								
19		一日市盆踊り	12								
20	福島	会津磐梯山	6								
21		相馬盆歌	6								
22		三春盆踊り	6			円外・円内					
23		川俣盆踊り	6								
24	新潟	相川音頭	13								
25		新潟甚句	6								
26		野良三階節	19								
27		亀田甚句	12								
28	茨城	潮来あやめ踊り	12								
29		直利音頭	8								
30	群馬	木崎音頭（地ならし）	6								
31		中善地の盆踊り	12								
32	埼玉	境石投げ踊り	10								
33	千葉	八日市場盆踊り	10								
34	東京	佃島盆踊り	20								
35	神奈川	瓜生野盆踊り	26								
36	山梨	奈良田追分	8			円外・円内					
37	長野	秋山のよさ節	6	無記入							
38		富倉エットコナ	22								
39		からす踊り	6								
40	静岡	妻良盆踊り	12								
41	愛知	設楽さんさ	8								
42		足助綾渡踊り	9								
43		津具音頭	28								
44	岐阜	郡上踊り（春駒）	8								
45		根尾踊り	8			円外・円内					
46		白川こだいじん	22								
47		郡上踊り（古調かわさき）	6								
48		郡上踊り（三百）	22								
49		羽島雨乞い踊り	14								
50		加子母盆踊り	24								
51		下呂まつさか	3								
52	三重	しょんがい音頭	13								
53		日永つんつく踊り	4								
54		松阪かわさき	12								
55		飯高祭文踊り	6								
56	富山	しばんば	13								
57	石川	野々市じょんがら	6								
58		しんこう踊り	34								
59	福井	舟寄踊り（片菱）	6								
60		どしゃどしゃ踊り	21								

61		シテナ踊り	10								
62	滋賀	信楽松阪	6								
63	京都	宮津節	28								
64	大阪	夜明け音頭	22								
65		東盆踊り	6								
66		勝間盆踊り唄	6								
67		貝塚さんや	36								
68	奈良	阪本踊り	17								
69	和歌山	八十八音頭	11								
70		塩津いな踊り	12								
71	兵庫	麦わら音頭	4								
72		生野踊り	16								
73		撰津音頭	24								
74	岡山	備中松山踊り	6								
75		大宮踊り(しっし)	16								
76		白石踊り	6								
77		宮内踊り	5								
78		祇園踊り	10			円心					
79		勝山千代万歳豊稔踊	10								
80	広島	川原石踊り	6								
81		御建踊り	18								
82		三原やっさ	8								
83	鳥取	みつぼし盆唄	16								
84		鹿野さんこ踊り	12								
85		茶町踊り	6								
86		勝部岩力踊り	17								
87		米子盆踊り	6								
88	鳥根	津和野盆踊り	20						無記入		
89		琴ヶ浜盆踊り	6								
90		玉造温泉盆踊り	11								
91	山口	下関平家踊り	6								
92		蹴出し踊り	26								
93		ヨーイヤナ	6								
94		野島盆踊り	6								
95		大田雨乞いさんさ時雨	6								
96		岩国音頭	6								
97	香川	安田おどり(手踊り)	15								
98		シカシカ踊り	6			円心					
99		岡田おどり	10								
100	徳島	阿波おどり	2								
101		神山音頭	11								
102		里浦の盆踊り	13								
103	愛媛	久万盆踊り唄	7								
104	高知	はっさん	11	二人組							
105		手結盆踊り(こっば)	11								
106		手結盆踊り(くろす)	12								
107		新吉おどり	16								
108		瑞応の盆踊り	14								
109		越の盆踊り	16								
110	福岡	三申踊り(思案橋)	6								
111		彦山踊り	6								
112	佐賀	鯨骨切り唄	22								
113		七山盆踊り	14								
114	熊本	植柳盆踊り	6								
115	大分	鶴崎おどり	12								
116		山路踊り	39								
117		堅田踊り	18								
118		国見盆踊り	5								
119		鶴崎おどり	12								
120	宮崎	いろは口説き	19								
121		別府供養盆踊り(たかなべ)	21								
122		三拍子おどり	6								
123		高鍋盆踊り	17								
124	沖縄	エイサー	19								
		計		64	46	8	2	7	62	47	6

み取ることができた、ア、踊りの手の数 イ、踊りの隊形 ウ、踊りのはじめ方についてまとめたものである。

資料2、3は踊り方の解説書に示されている所作の用語を、足の所作、手の所作に分けて分類したものである。解説書は、各々の踊りによって書き方、使用用語が異なっているが、できるだけ使用されている用語をそのまま用いて分類することとした。

足の所作の分類は、先行研究で見出された念仏・風流系芸能にみられる共通な足の所作に従って次のように分類した。（資料2）

「A：三歩歩く」は、「足を出す、引く」という単純な表記のものを対象として分類した。

- 半歩出す・引く（前後、左右）
- 一步出す・引く（前後、左右）
- 二歩歩く（前後、左右）
- 三歩歩く（前後）

「B：両足を揃えて膝を屈伸する」は、大地と足のかかり方ととらえることができる。基本的には、踏む所作を対象としたが、Aで対象とした、単純に足を「出す、引く」と表記されているものに対して、特徴のある足の出し方、引き方を、大地とのかかり方を示す

ものとして分析の対象とした。

- 両膝を軽く曲げる、腰を落とす
- 横にひきつける、引き揃える、横に踏む、踏み揃える、束
- 踏み出す、踏み下ろす、その場足踏み
- 爪先を立てる、トンとつく、爪先を出す
- 踵を立てる
- 蹴り出す、蹴りこむ、（2度蹴り出し）
- すり出す（引く）
- 割り足

「C：片足を軸足の前で交差させる（×印 綾をつくる）」は足を交差させた状態が、両足が大地についている状態から、片足が大地を離れ、さらに、両足が大地を離れる状態（跳ぶ）までを対象とした。

- 入れ込み
- 片足を、もう片足の前に出す、踏み込む（踏み出し） 体重をかける
- 膝を曲げて前にあげる（浮かす）
- 足を後ろに上げる
- 跳ぶ

資料2：足の所作

No.	県名	名 称	A				B				C				
1	青森	津軽盆歌													
2		南部盆踊り													
3		十三の砂山													
4		鱒ヶ沢甚句													
5		黒石じょんがら節													
6		津軽甚句													
7		御慶山踊り													
8		とらじょさま													
9		嘉瀬の奴踊り													
10		黒石甚句													
11	岩手	江刺甚句													
12		盛岡さんやれ													
13		南部よしやれ													
14		沢内甚句													
15	秋田	西馬音内盆踊り													
16		ドンパン節													
17		秋田盆歌													
18		毛馬内盆踊り													
19		一日市盆踊り													
20	福島	会津磐梯山													
21		相馬盆歌													
22		三春盆踊り													
23		川俣盆踊り													
24	新潟	相川音頭													
25		新潟甚句													
26		野良三階節													
27		亀田甚句													





資料3：手の所作

No.	県名	名 称	a							b									c		
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
1	青森	津軽盆歌																			
2		南部盆踊り																			
3		十三の砂山																			
4		鯨ヶ沢甚句																			
5		黒石じょんがら節																			
6		津軽甚句																			
7		御慶山踊り																			
8		とらじょさま																			
9		嘉瀬の奴踊り																			
10		黒石甚句																			
11	岩手	江刺甚句																			
12		盛岡さんさ踊り																			
13		南部よしゃれ																			
14		沢内甚句																			
15	秋田	西馬音内盆踊り																			
16		ドンバン節																			
17		秋田盆歌																			
18		毛馬内盆踊り																			
19		一日市盆踊り																			
20	福 島	会津磐梯山																			
21		相馬盆歌																			
22		三春盆踊り																			
23		川俣盆踊り																			
24	新 潟	相川音頭																			
25		新潟甚句																			
26		野良三階節																			
27		亀田甚句																			
28	茨 城	潮来あやめ踊り																			
29		直利音頭																			
30	群 馬	木崎音頭																			
31		中善地の盆踊り																			
32	埼 玉	境石投げ踊り																			
33	千 葉	八日市場盆踊り																			
34	東 京	佃島盆踊り																			
35	神奈川	瓜生野盆踊り																			
36	山 梨	奈良田追分																			
37	長 野	秋山のよさ節																			
38		富倉エツトコナ																			
39		からず踊り																			
40	静 岡	妻良盆踊り																			
41	愛 知	設楽さんさ																			
42		足助綾渡踊り																			
43		津具音頭																			
44	岐 阜	郡上踊り(春駒)																			
45		根尾踊り																			
46		白川こだいじん																			
47		郡上踊り(古調かわさき)																			
48		郡上踊り(三百)																			
49		羽鳥雨乞い踊り																			
50		加子母盆踊り																			
51		下呂まつさか																			
52	三 重	しょんがい音頭																			
53		日永つんつく踊り																			
54		松阪かわさき																			
55		飯高祭文踊り																			
56	富 山	しばんば																			
57	石 川	野々市じょんがら																			
58		しんこう踊り																			
59	福 井	舟寄踊り																			
60		どしゃどしゃ踊り																			
61		シテナ踊り																			
62	滋 賀	信楽松阪																			



## 研究結果及び考察

### 1、踊りの手の数

資料1に示してある踊りの手（動作）の数と盆踊りの種類を対応させたものが資料4である。

資料4：踊りの手数

手数	盆踊りの数
2	1
3	1
4	3
5	2
6	36
7	4
8	6
9	1
10	7
11	7
12	12
13	5
14	4
15	1
16	6
17	3
18	2
19	3
20	2
21	3
22	5
24	2
26	2
28	2
34	1
36	1
39	1
40	1
計	124

124種類の盆踊りの手の数は、二～四十手までと幅があった。そのなかで、36種類と一番多くの盆踊りで踊られている手の数は六手であった。ついで、6の倍数の十二手は12種類の盆踊りで踊られている手の数である。踊りの手の数は少ないほど、素朴で原始的であると考えられるが、二～六手の盆踊りは計43種類であり、本論で対象とする盆踊り124のうち約34.7%を占めていることがわかる。

念仏踊りが「ワンフレーズが六つくらいの動作」と述べている三隅は、盆踊りの手の数について次のように報告をしている。<sup>13)</sup>

盆踊りなどの集団舞踊に六動作が非常に多いということは、宝塚歌劇団の有名な振付師であり演出家の渡辺武雄さんが、色々各地の民俗舞踊を研究した上で指摘されています。

盆踊りに六動作が多いことは、念仏踊りに六動作が

多いことの影響だと考えるのであるが、念仏踊りにはなぜ六動作が多いのであろうか？

それは、念仏踊りが、念仏を唱えながら踊っていたことが大きな原因ではないかと考える。念仏踊りのリズムについて武智<sup>14)</sup>は次の興味深い論を提示している。

それでははたして念仏踊は、三拍子に叶うものであったであろうか。

「ナムアマダブナミアミダブ」

という念仏は、まさしく三拍子を形成している。その変形である

「ナンマイダアナンマイダア」

も三拍子である。

今日、僧侶が木魚をにぎやかに叩きながら、「ナンマイダアナンマイダア」と唱えるとき、木魚が四拍子で叩かれ、念仏が三拍子で唱えられていることが多いが、この三拍子と四拍子の奇妙な混合がなんでもなく行われているところに、いかにも日本人らしいリズムの混合、交換をみることができる。

… <中略> …

とにかく、このようにして三拍子の浮かれ拍子は次第に日本の芸能のなかに定着し、また本質的に私達が持っていないものを珍しがる観客によって支持されて、はじめの宗教的熱狂の場から次第に芸能の中に移され、念仏踊り ややこ踊り 歌舞伎舞踊というように変化しながら受けつがれていくことになった。

武智の示す「念仏踊り ややこ踊り 歌舞伎舞踊」はまた、「念仏踊り 盆踊り 歌舞伎舞踊」とも置き換えることができるであろう。

本論で対象とした盆踊りの手の数の数え方は、「一つので一動作」、「二呼間で一動作」、または、「一呼間で一動作」と解説書の書き方が多様であった。動きと動きの繋ぎ方の「間」をも考慮すると、武智の指摘する「木魚が四拍子で叩かれ、念仏が三拍子で唱えられている」ことにも通ずる数え方ではないだろうか？その意味で、踊りの手の数は、解説書に記述されている五～七までが六と同じ手の数ともとらえることができよう。

例えば、岡山県の「宮内踊り」は10呼間で五手の所作が示されているが、リズムは、6拍である。<sup>15)</sup> 念仏を唱えながらの所作が一フレーズ六動作となったのだと考える。

また、盆踊りが一フレーズ六動作という少ない動きを単位としていることは、単純な動きを繰り返すことによって、共に唄い、踊る人々の共感・共振を高めるた

めの重要な要素であろう。その意味で踊りの手の数が少ないほど、その効果は増す。「踊りの型が定まる前の原始的舞踊では、一定のリズムに乗ってさえいれば、あとは自分で創作しながら自由に踊る」<sup>16)</sup>といわれる自由型の踊りは、踊りの手が二手と一番少ない「阿波踊り（徳島県）」であり、「沖縄の『カチャーシー』、奄美大島の『八月踊り』、鹿児島島の『三下り』と同様に自由型の同系である。」<sup>17)</sup>また、踊りの手が六手の秋山のよさ節（長野県）でも、踊りの自由さについて、「踊りはかなり自由である。『人によって振り手の方向が違うが、どちらへ振るのか』などと質問しようものなら『型はない』とはねつけられる。」<sup>18)</sup>と解説している。

念仏踊りが、リズム主体の舞踊であり、短いフレーズを繰り返すことによって成り立っていることは、時実のいう「リズムの魔力の宗教的利用」<sup>19)</sup>であろう。祖霊を祀り、新仏を迎え、送る集団の踊りである盆踊りの中に、共に踊る人々に共有される宗教的感覚が惹き起こされる、短いフレーズの繰り返しという念仏踊りの特性が濃厚に伝承されていることが明らかである。

## 2、踊りの隊形

踊りの隊形は一定の広場で櫓を組みその周りで踊る輪踊りの形態が、124種類中118種類で約95.1%とほぼ全体を占めている。列や正面の隊形は、新仏の家の庭で位牌に向かって踊ったり、「流し」で列をつくって移動する踊りである。輪踊りの方向は、時計方向が64種類、反時計方向が46種類であり、踊りのはじめ方は、進行方向に向いているものが62種類、円心向きが47種類であり、逆進行方向を向いて始まるのは6種類と少ないことが分かる。

この結果より、本論で対象とした盆踊りはほとんどが輪踊りであり、進行方向、踊り始めの方向については、二分されていることが明らかとなった。「輪踊とか集団の踊りは、本来的に何かその中心を必要としていたといえるのではないか。しかも、その踊りの全体を一つに束ねるものが必要であるということは無意識のうちに表明しているのかもしれない。」<sup>20)</sup>と指摘されているように、盆踊りが何故輪踊りなのかについても考究する必要があるが、本論では省略する。

## 3、足の所作

### (1) 基本的な足の所作

A - 1: 「一歩出す・引く」足の所作は、124種類中109種類の盆踊りで用いられている足の所作であり、一歩

出したり、引いたりしながら手の所作を行うのが盆踊りの基本的な踊り方となっていることが伺える。

次に共通に見られる足の所作は、B - 6: 「横にひきつける、ひきそろえる、横に踏む、踏み揃える、束」で、87種類の盆踊りのなかで用いられているものである。A - 1の「一歩出したり、引いたり」しては、B - 6の「両足を揃える」という足の所作を連続させるものが多い。

次に約半分以上の盆踊りのなかで用いられている足の所作をしてみる。B - 7: 「踏み出す、踏み下ろす、その場足踏み」は64種類の盆踊りで使われている。C - 13とC - 14は同じ足の所作であるが、解説書で表記されている語を用いたので区別して示している。合わせると54種類の盆踊りのなかで用いられている。C - 15、16の片足を前や後ろに挙げて×印（綾）をつくる足の所作は、60種類の盆踊りで用いられている。

これらの結果より、念仏・風流系芸能で見出した基準となるA～Cの足の所作は、盆踊りのなかでも同様に、基本的な足の所作として、共通に用いられていると判断することができる。盆踊りで用いられる足の所作は、A: 「一歩出す、引く」、B: 「横に踏む、踏み揃える」、「踏み出す」、C: 「入れ込み」、「片足を前（後ろ）に浮かす」が代表的なものであるといえよう。

### (2) 「踏む」足の所作

「踏む」足の所作について郡司<sup>21)</sup>は次のように述べている。

<踏む>ということが、大地の精霊に対する鎮魂と蘇生を意味する動作として、日本舞踊では特に重要な位置を占めたのである。踏むとき太鼓や鼓の調べに合わせるのも、古い宗教的表現であった。これを踏むのに、爪先で踏むのと、踵で踏む方法がとがある。舞楽では多く踵をつき、能では爪先をふむ。

盆踊りの中に見られた「踏む」足の所作（B - 6: 「横にひきつける、ひきそろえる、横に踏む、踏み揃える、束」、B - 7: 「踏み出す、踏みおろす、その場足踏み」）は、単に「踏む」という記述で示されているものが多い。郡司の指摘する、「爪先を立てる」は34種類と約三分の一の盆踊りで用いられている足の所作であるが、「踵を立てる」足の所作は、「江刺甚句（岩手県）」と「エイサー（沖縄県）」の二種類のみであった。

「三春盆踊り（福島県）」では「膝を屈すること、地面を踵でする」<sup>22)</sup>ことを重視していたり、「神湊の盆踊

り(福岡県)」では、「中町地蔵の前野広場に浜の砂を三尺ほどの高さに積んで、その土地を浄め、参加者は六部行者の如く白衣、白足袋姿で鉦を打ちならして念仏を唱え、村の老若男女がその砂をもとの地に踏みならし固めてまわって踊っていたのである。」<sup>23)</sup>と踊る大地を強調していることが伺われる。

大分県の姫島の盆踊りの足の所作が「ボンアシ」と呼ばれていることを指摘した吉川<sup>24)</sup>は、ボンアシの所作を次のように記述している。

左足を前に出してすぐ引き戻し  
左足を前に出して進み  
右足を前に出してすぐ引き戻し  
右足を前に出して進み

というもので、これを何回繰り返してもよい。

この足の所作は、本論で抽出したB-10「蹴り出す、蹴り込む、(2度蹴りだし)」の二度蹴りだしに相当する。この足の所作を用いている盆踊りは、「江刺甚句(岩手県)」「(右斜め前に手と足出し入れ2回)<sup>25)</sup>」「設楽さんさ(愛知県)」「(左足を二度蹴りだしながら)<sup>26)</sup>」「七山盆踊り(佐賀県)」「(左足を二度蹴りだしながら)<sup>27)</sup>」等8種類の盆踊りであった。

また、「踏む」ことをより強調する履物の下駄についての記述がみられる。

「舟寄踊(福井県)」は「下駄ばやし」<sup>28)</sup>と呼ばれていたり、「蹴り足が多いので、朝まで踊ると下駄の歯がなくなる」<sup>29)</sup>のは、「十三の砂山(青森県)」である。同様に「おろしたての下駄が一晩ですりつぶれてしまうほどである」のは「津軽盆唄(青森県)」<sup>30)</sup>である。

下駄を踏む音を伴奏音として用いる盆踊りは、拝殿や橋の上で踊ることで、より効果を高めている。

「根尾一円は新暦15~16日の2日間、提灯で飾った氏神の拝殿で、新しい下駄を履き、夜を徹して踊る。伴奏楽器を使わず、音頭取りの高らかな歌声と、踊り手の下駄で拝殿の板を踏み鳴らす音が和して<…中略…>」<sup>31)</sup>と解説されているのは、「素朴で原始的な踊りがそのまま今日に伝承されている」<sup>32)</sup>といわれる「根尾踊り(どんどいつ)(岐阜県)」である。

「新潟甚句(新潟県)」<sup>33)</sup>は橋の上で踊る。

実は町の四つ角よりも、むしろ橋の上が格好の踊り場であった。<…中略…>踊り手は皆低い下駄をはき、それで橋板を踏むから、リズムカルな下駄の音が橋板に快くひびく。またその下駄の音と樽太鼓の音とが微妙にひびき合った。<…中

略…>亡者は海のかなたに立ち去るという全国的な信仰が越後や羽前では特に強く<…中略…>この信仰に基づいて水の上の踊り場すなわち橋の上を選んだものであろう。

中国少数民族の輪踊りを調査している星野<sup>34)</sup>は、屋内で踊られる盆踊りを「躍堂形式の輪躍り」と呼んでいる。

足踏みに力を入れた輪踊りが山間部を中心としてわが国にも残存しているのである。それは中国側のものが多く野外で踊られているのに対し、こちらは屋内で踊られるものである。それを私は躍堂形式の輪踊りとでも名付けたいと思う。

具体的な「躍堂形式の輪踊り」として、「根尾踊り」と同様の岐阜県白山麓一帯の山間部をはじめ、富山県、高山市、京都市などの例をあげ、

能では、舞台下に襦をいけて床踏む音の音響効果を良くするという工夫がほどこされているわけだが、これと同様に民間の舞踊の中でも床踏む音に神経を払ってきたことが察せられるのが、躍堂である。

と指摘している。<sup>35)</sup>

神のはきものとしての下駄を研究している秋田<sup>36)</sup>は、念仏踊りと下駄の関係について、「一遍聖絵」を通して次のように述べている。

一遍たちが踊る舞台に、下駄をはいた僧・尼はいない。すべて裸足である。舞台上で踊る彼ら彼女たちは、首から吊り下げた鉦鼓を打ち鳴らし、その軽快なリズムにあわせて踊っている。しかし、一遍一行の旅姿をみると、誰も鉦鼓などを持ち歩いていない。絵画という性格を考慮しても、念仏踊りの必需品である鉦鼓を持ち歩かないというのは問題がある。おそらく、念仏踊りに必要な道具は、「俗時衆」や「結縁衆」とよばれた人たちが現地で調達したのであろう。とすると、予定外の場所で念仏踊りを行う必要が生じた場合、鉦鼓に変わってリズムをとる道具として、何を使用したのであろうか。鉦鼓に変わるその道具、それが下駄であったと私は想定している。

盆踊りについては次のように指摘している。<sup>36)</sup>

下駄の音は、ステップの踏みかたによっては、音楽とまではいえないまでも、踊りにあわせてリズムカルな拍子を打ち響かすこともできた。下駄と踊りといえば、直ちに盆踊りを連想する。盆踊りは、すでに15世紀前半には成立していたようであるが、いつ頃から下駄をはくようになったのかは明らかでない。

<…中略…>

盆の行事である脊精霊迎え・精霊送りは、その一方で、カミ迎え・カミ送りでもあることから、カミの心意にかなうものとして、音を出す聖なるはきものである下駄をはいて踊ったとみるものである。

盆踊りの、下駄をはきリズムを刻み、大地や床を踏み足の所作の中に、念仏踊りの特性を見出すことができる。

#### 4、手の所作

歌舞伎踊りの<手踊り>のもとになったとも考えられる盆踊りの手の所作の種類の結果は資料3に示したとおりである。

手の所作には、人間の動作や職業を基にした意味のあるものと、リズムや流動を主とする意味のないものがある。

本論で対象とした盆踊りの手の所作の中で、意味のある所作は、「麦わら音頭（兵庫県）」の「麦を扱う動作にやや似ている部分もある」<sup>38)</sup>や、「川俣盆踊り（福島県）」の「稲の借り上げを表現している。労作豊年踊りとして力強く踊ることが特徴」<sup>39)</sup>という農作業に関するものや、「櫓こぎ」、「壁を塗る動作」、「泥をすくう」等、合計6種類の盆踊りに記述されているだけであった。

これは、盆踊りがリズムを主体とした踊りであり、唄は時代時代の流行り歌を採用し、その歌詞の意味を表現するというのではないという特性を示しているものである。

本論で対象とした盆踊りに共通に見られる手の所作は、a：手を合わせる・合掌系、b：両手と同じ動き、c：片手ずつ違う動きと、大きく三種類に分類することができ、個別の手の所作は19種類であった。

多くの盆踊りに共通に用いられている手の所作は、a-2：「一回の手拍子」が73種類と最も多く、次は62種類の盆踊りに用いられているc-18：「かざす」である。a-6：「かいぐる」（47種類の盆踊り）b-17：「両手を上に挙げる」（46）b-12：「山開き」（45）c-17：「前後に振る」（44）は約三分の一の盆踊りで用いられていることがわかる。足の所作は109種類、あ

るいは87種類の盆踊りで、共通に用いられる所作があるのに比べ、手の所作は、各々の盆踊りで固有に用いられているといえよう。その中で、盆踊りの手の所作として共通に用いられているものとして「手拍子」と「かざす」をその代表とすることが可能だと考える。

#### (1) 合掌・手拍子

念仏踊りには、集団舞踊として、皆で揃って動けるための合図として用いられる手拍子があると三隅は述べているが、盆踊りのなかに見られる手拍子は、a-1~4に示している通り、73種類以上の盆踊りのなかに見られる手の所作であり、盆踊りの手の所作として代表的な所作であると言えよう。

手拍子は「チョン」と一回打つもの（a-2）から、「チョチョンガチョン」、「チョンチョンチョン」等の3回以上打つ手（a-3）また、打ち方（掌の重ね方）によって両手を上下に開く手拍子（a-4）などがみられる。

みんなの気持ちを合わせるための、踊りの一フレーズの区切りの合図としての手拍子だけでなく、音を出さずに両手を合わせる手の所作は、16種類の盆踊りの中で見られる。躍りの解説書では、「手を合わせる、両手合わせ」（「十三の砂山（青森県）」<sup>40)</sup>、「木崎音頭（群馬県）」<sup>41)</sup>、「岩国音頭（山口県）」<sup>42)</sup>）、「両掌軽く合わせる」（「富倉エツコナ（長野県）」<sup>43)</sup>）という記述や、手を合わせる場所を指定している「胸前に両手をあわせ伸ばし」（「白石踊り（岡山県）」<sup>44)</sup>）、「束立ちで胸前で手を合わせる」（「安田踊り（香川県）」<sup>45)</sup>）があり、明確に合掌と示しているのは、「音なし合掌」（「東盆踊り（大阪）」<sup>45)</sup>）等である。

これらの合掌の手の所作があることを考えると、念仏踊りの時の合掌が一方ではそのまま残り、また、一方ではリズムを強調するために、音を出す手拍子として変化してきたのではないかと考えられる。盆踊りの中で見出された「合掌・手拍子」は、歌舞伎舞踊の中では、「手拍子」の仕方、「回シ打ち」、「三段打ち」、「天地打ち」、「左右打ち」、「耳脇打ち」等と細かく分類されている。

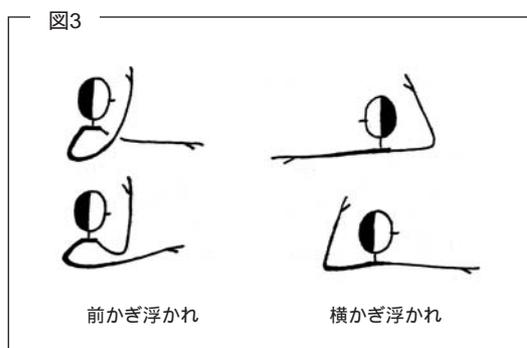
手拍子が一フレーズのなかのどのタイミングで打たれるのかを分析してみたが、顕著な特徴は見出せなかった。

#### (2) かざす

片手ずつが異なった動きをする手の所作は、両手が同時に同じ動きをするものに比べてより複雑であると思われるが、盆踊りの手の所作の中で、「手拍子」の次

に多くの盆踊りに見られるのが、c-18:「かざす」で62種類の盆踊りで用いられている。これは、解説書の中で、「片手立てかざし、片手前(横、下)に伸ばす」、「さしかざす」、「眺めかざす」、「片手挙げた手の下(袖)に添える」等と表記されているものをまとめて「かざす」として分類したものである。

目的の項で述べたように、歌舞伎舞踊のなかで「盆踊り」を示す所作は、標準日本舞踊譜で分類されている「本来意味ヲ持タナイ姿勢ト動作」のなかの、「本来リズムヲ主トスルモノ」である「鬢浮カレ」、「鍵(横・前)浮カレ」、「額浮カレ」、「サシ浮カレ」等を象



徴したものだと思われる。(図 )<sup>47)</sup>

「浮カレ」は「受け手と伏せ手を同時に小手返しする」ものであり、両掌を同時に翻すことによって躍動感を作り出すものである。(解説書にはそれぞれの盆踊りにおけるあげた手の伏せ、明けが区別されて記述されていたが本論では一括して「かざす」として扱っている。)

「かざす(鬢浮カレ)」のみの繰り返しである「阿波踊り」の解説書には次のような記述がある。<sup>48)</sup>

男は手を下げようとどうしようと、全く制約がないが、女は手を肩の高さに上げて腕と手首と指先で踊らなければならないという制約がある。これは女踊りの美もさることながら、おそらく女を不浄と見て神や優位靈魂の憑依する肩より上で招き手を主とする動作を強いた遺習であろう。この点から見ても、阿波踊りは唄や曲こそ変化したが、踊りはかなり古代のままを伝承しているといえる。

「踊るとき手が目の高さより上にあることを特色としている。沖縄のカチャーシーと共通するものであろう。」<sup>49)</sup>といわれる「三原やっさ(広島県)」や「盆踊りも夜明かして先祖などの靈魂と踊っている間は、両肘を肩より下におろしてはいけませんが、夜明けの太鼓が鳴り響くと靈魂がその音によって別れを告げ、開放

されたこの世の人間だけになり、手を下におろして軽々と踊る。肩より上は神や優位靈魂の憑依する所、肩より下は人間の不浄体と考えられていた。」<sup>50)</sup>と記述されている「夜明け音頭(大阪府)」もある。

盆踊りの象徴として用いられている「鬢浮カレ」の所作のなかに宗教的含意を伺うことができる。

## まとめ

以上の結果より、念仏・風流系芸能のひとつである盆踊りの所作の特性は、次のようにまとめることができる。

- 1) 本論で対象とした124の盆踊りの手の数は、一フレーズ六手が最も多く(36種類)、二~六手の踊り(43種類)が約34.7%を占めている。
- 2) 踊りの隊形は輪踊りがほとんどである。(124中118種類、約95.1%)
- 3) 足の所作は、先行研究で見出された、念仏・風流系芸能の基本的な足の所作と共通な足の所作であることが明らかとなった。特に「踏む」足は、踏む場所、下駄との関係に念仏踊りとの関連性が伺われる。
- 4) 手の所作は、「合掌・手拍子」、「かざす」が代表的な手の所作である。

盆踊りはリズムを主体とした踊りであるということが通説であるが、一フレーズ六手という単純な動きの繰り返しなかで、一歩出したり、引いたりしては踏んだり、綾(×印)をつくったりする呪術的な足の所作をしながら、手の所作で祈り、リズムを刻み(合掌・手拍子)、流動感を漂わせながら(かざす)、祖霊を向かえ、送るという宗教的心意を表現しているのだと考える。

盆踊りは、念仏・風流系の民俗芸能であるが、他の芸能とは異なる次のような盆踊りの独自性がある。<sup>51)</sup>

盆踊りの原形が、仏教以前の精霊の来訪に発し、のち盆供養に新しい死霊を祀る場として、特に中世に至って盛んになるが、全国的に庶民生活とつながりをもつ点で、他の民俗芸能とはその性格を異にする、一般性をもつものである。

「地踊り」、「草踊り」ともいわれるように誰もが参加して踊れる踊りの所作は単純で、素朴である。時代を超えて伝承されている、地域ごとの固有な、古風な所作の中に、盆供養への参列者が共に踊ることで死霊

を祀る優しさを見出すことができる。わが国独特の死生観と直結した踊りは貴重な文化である。

本論は、盆踊りの所作を上半身と下半身に分けて分析考察したものであるが、本田<sup>52)</sup>が「舞踊は足の動作だけではなく、手の振りもある」と言及したように、踊りは全身運動である。本論で明らかになった手と足の所作が一体となって用いられている全身の所作を分析することによって、「ナンパと通」<sup>53)</sup>をはじめ、「三」の繰り返し、「左と右」等わが国の「踊り」にみられる特有な性質を浮きあがらせることができるのではないかと思われる。さらに、その音楽性(テンポ、リズム等)の分析を加味することで、盆踊りの特性はより明らかにすることができよう。

消えつつある民俗芸能の所作の中に、文字には記録されていない素朴な宗教観が伝承されていることを思う時、その芸能の収録と保存、分析が急務だと思われる。

#### (註) :

- 1) 郡司正勝 編 『日本舞踊辞典』東京堂出版 1977 p.373
- 2) 平安時代に空也上人によって始められ、鎌倉時代に、一遍上人に受け継がれた踊躍念仏が、時宗とともに民間に広まり、室町時代に盆踊りに展開したものとされる。  
(前掲書1) p.374)
- 3) 三隅治雄 『日本の民謡と舞踊』大阪書籍 1990 p.138
- 4) 東京国立文化財研究所編 『標準日本舞踊譜』1966
- 5) 西洋舞踊に対して用いられ、「邦舞」といわれる語と同じく行われているが、この言葉のもつ概念は、普通は歌舞伎舞踊をさしてしており、日本の舞踊の全体をさすものとはなっていない。したがって、日本舞踊のもつ意味は、日本舞踊の代表としての歌舞伎舞踊をさす語だといっていい。(前掲書1) p.302)
- 6) 花柳千代 『実技 日本舞踊の基礎』東京書籍 1981 p.58  
7) 前掲書4) p.142
- 8) 山田敦子 『念仏・風流系芸能の足の所作 - 中国貴州省銅仁地区松桃村苗族の儺堂儀の禹歩と反閃を分類基準として - 』舞踊学会紀要 舞踊学第24号 2001  
山田敦子 『念仏・風流系芸能の足の所作 - ふむ・はねる - 』高知大学教育学部研究報告第68号 2008
- 9) 郡司正勝 『おどりの美学』演劇出版社 1959 p.211
- 10) 社団法人 日本フォークダンス連盟編 『ふる里の民謡 ~ 』2000
- 11) 民俗芸能研究の芸能の研究について、その方法論が確立されていないことを山路は次のように述べている。「民俗音楽研究はさておき、民俗芸能研究はこれまでの多くが調査報告に留まっており、その本格的研究となるとそう多くの成果が挙げられているわけではない。わが国芸能史研究の傍証資料として活用されたり、その芸能の歴史については論究されるが、芸能研究ということになると、そのその方法論を含めて確立しているとはいえない。」  
(山路興造 「本格的民俗芸能研究が始まる予感」 館報 池田文庫 第32号 2008、4 p.19)
- 民俗芸能の芸能研究のこのような現状の中で、本論では、記述されている所作の用語を分析するという方法を試みるものである。
- 12) 民謡：郷土を喪失した都会の婦人会、日本民謡協会の舞踊部内に所属する人々によって、擬似民俗舞踊として踊られる。(前掲書1) p.401)
- 13) 前掲書3) p.138
- 14) 武智鉄二 『舞踊の芸』東京書籍 1985 pp.231~233
- 15) カッ・カッ・カー・(オイ)・ドンという単調な6拍のリズムに乗せて、踊りの効果を發揮している (前掲書10) p.79)
- 16) 前掲書10) p.252
- 17) 前掲書10) p.252
- 18) 前掲書10) p.255
- 19) リズムという要素は、理性、知性の座である新皮質に対して、鎮静的、麻痺的な効果を及ぼす。<…中略…>このような状態になると、一方では、抑圧されていた大脳辺縁系に宿る本能や情動の心が解放され、本能や情動の行動としてあらわに出てくる。<…中略…>コマーシャル・ソングや映画の主題歌やお休み前の音楽はリズムの魔力の文化的利用、コーラス - アジ - カンパは政治的利用、お経 - お説教 - お布施は宗教的利用といったところであろうか。  
(時実利彦 『人間であること』岩波新書 1970 pp.142~143)
- 舞踊のなかの短いリズムの繰り返しについて三隅は、次のように述べている。  
生理的に言っても、短いフレーズの歌を繰り返していくと、あるいは短いフレーズの音によって単純な動作を繰り返していくと、人間はだんだん興奮状態になり、さらに恍惚状態、すなわち自分が自分でなくなるエクスタシーの状態におちいり、やがて、魂のぬけた、いわゆるトランスの状態になります。これを古い日本語でいえば、エクスタシーがものぐるいで、トランス状態が神がかり、ということです。(前掲書3) p.139 )
- 20) 星野 紘 『世界遺産時代の村の踊り』雄山閣 2007 pp.165~166
- 21) 郡司正勝 『おどりの美学』演劇出版社 1959 p.195  
22) 前掲書10) p.18
- 23) 前掲書10) p.90
- 24) 吉川周平 「ボンアシ - 盆踊りにおける足の運びが意味すること - 」体育の科学 Vol.47、8 1997 p.608
- 25) 前掲書10) p.81
- 26) 前掲書10) p.31
- 27) 前掲書10) p.119
- 28) 前掲書10) p.209
- 29) 前掲書10) p.41
- 30) 前掲書10) p.25
- 31) 前掲書10) p.47
- 32) 前掲書10) p.47

- 33) 前掲書10) p.48
- 34) 星野紘 『歌・踊り・祈りのアジア』 勉誠出版 2000 p.14
- 35) 前掲書34) p.22
- 36) 秋田裕毅 『下駄 神のはきもの』 法政大学出版局2002 p.216
- 37) 前掲書30) p.214
- 38) 前掲書10) p.52
- 39) 前掲書10) p.27
- 40) 前掲書10) p.43
- 41) 前掲書10) p.124
- 42) 前掲書10) p.193
- 43) 前掲書10) p.269
- 44) 前掲書10) p.76
- 45) 前掲書10) p.236
- 46) 前掲書10) p.287
- 47) 前掲書6)
- 48) 前掲書10) p.252
- 49) 前掲書10) p.187
- 50) 前掲書10) p.276
- 51) 前掲書21) pp.75～76
- 52) 吉川周平 「日本伝統芸能学の構築のために - 身体のウゴキの観察と分析の方法 - 」 p.31 (森永道夫編 『芸能と信仰の民族芸術』 和泉書院 2003)
- 53) ナンパと通について、本論の対象文献に記されていたものを示す。  
古調かわさきは、縷々述べたように、郡上踊りの中核であり、その存在価値は専らナンパの表現にかかっている。まして、農民踊り - 念仏踊り - 歌舞伎踊りという系譜におけるナンパの重要性と純粋性を保持しているのが「古調かわさき」であるから、今後とも大いに尊重されるべきである。( 前掲書10) p.66)  
彦山踊り(福岡県)は彦山村独特のものであって、近隣の盆踊りなどとは趣を全く異にする。踊りは優雅な通(南蛮の反対)で、手足が休むことなく、しかも、編み笠の後部に御幣をつけて、神とともに踊る清潔さを感じられる( 前掲書10) p.76)